

# 特集Ⅰ ストロングウドンセット

2005G杯覇者・古川 実が魅せる、冬をブチ抜くストロングスタイル!

# 特集Ⅱ 最強・例会必勝論

関べら最強コンビ・森崎政典&戸張誠が贈る、野釣り例会必勝エッセンス!!

- 29 名手・石井旭舟がいく、へら鮒出合い旅… へらぶな浪漫街道  
《第三十七回》台湾浪漫釣り
- 36 《新連載》小池忠教 K'S FORM & STYLE  
《Vol.1》セット釣りのフォーム 野田幸手園
- 43 《新連載》棚網 久の我流  
《第一回》冬の三名湖を斬る!
- 51 筑波湖九周年記念大会
- 52 《新連載》吉川ひとみのあっち こっち そっち♡  
《Vol.1》厚木へら鮒センターでガチンコ勝負!?
- 57 平成17年度 吉羽園賞金大会
- ★AREA REPORT
- 58,66 水元小合溜(東京都) 本誌・伊藤洋一
- 60,68 北潟湖(福井県) 山本一朗
- 61,69 ひだ池(愛知県) 後藤 誠
- 62,70 水藻FC(大阪府) 前田誠志
- 63,71 筑後川&宝満川(福岡県) 河口正伸
- 134 竹とともに生きる。  
《第28回》二代目「魚心観」 松下 裕
- 138 《新連載》稲毛利夫 野釣り場地獄巡り  
《第2回》師匠、オデコ確率120%復活ですか!?(常磐道・岩間IC付近の野池巡り)

- 142 《新連載》中澤 岳 フィールド真っ向勝負  
《Vol.2》究極「抜きセット」in三和新池
- 148 《新連載》杉山達也のSUPER SPLASH!  
《ROUND.2》浜野H.C:ウドンセット「本家の凄み」
- 154 《新連載》田辺哲男&小林恭之の間答無用へらツアー  
《Vol.2》単人大池月例底釣り大会の奇跡!?
- 159 柴舟 「至連」「世志彦」火入れ無料サービス実施
- 193 フィッシングレディ  
《今月のレディ》岡野優子さん 逆井H.C
- 194 岡田 清 Deep Side Angle  
《Vol.28》【両グルロマン】 友部湯崎湖(茨城県)
- 201 《新連載》北川穂積 西の交友録  
《第2回》ゲスト:田中 武 釣り場:新雨堤つり池センター(兵庫県)
- 204 釣りの帰りに寄りたいお店  
《file.16》東京下町・小岩駅近く【プレーゴ パスタ パール】  
の鴨肉のソテー・パールサミソース
- 206 釣果予想クイズ

p.208 こだわりの店

## 「黒べゑ」

### 新春お年玉プレゼント

## 釣り場割引クーポン券

野田幸手園 椎の木湖  
清遊湖 谷和原大沼 単人大池  
上尾園 F.A吉羽園 谷養魚場  
将監 柳生F.P 筑波白水湖  
泉壘 逆井H.C 友部湯崎湖  
水藻FC 甲南へらの池  
三和新池 狭山H.C 新座L.C  
川越FC 府中H.C 当麻池  
多賀釣池 芦田湖水光園  
鳥羽井沼 朝日池 大上へら池  
田島池 霧の沼 小川つり堀園  
清川つくしF.C  
三名湖・舟宿 光月  
千代田湖・舟宿 千和

p.165~



▶今月の表紙  
angler: 古川 実  
field: 谷養魚場へら池  
photo: 本誌・里  
layout: 本誌・里

# へら鮒

## 2月号

Feb.2006 No.482

- 75 へら鮒釣り 超基本講座  
《第14回》段差の底釣り 実釣編
- 81 《新連載》ガチンコ道場  
《第2回》えっ、ナジませないの!?! 野田幸手園
- 88 《新連載》カリスマ伝説  
《Vol.2》JBへらぶなトーナメント第5戦(決勝大会) 清遊湖
- 92 《新連載》石川裕治が伝授する王者の法則  
《第2回》ウドンセット 野田幸手園
- 99 江成公隆のトーナメンター、復活への道。  
《Vol.44》今月の表紙
- 106 《新連載》すすめつつ へら鮒調査隊! 天野正由  
《調査ファイル02》タビオカ持って釣りに行ってきてちょ~だい。
- 110 水辺のプラネタリウム 吉本亜土  
《今月の星空》「アフリカの水辺2」
- 116 最狂へら戦士養成所“鮒の穴” 漢タカハシ  
《第三十六話》今年もますます過激にヒートアップ!  
X'mas SP 冬のヘタレ王決定戦!!

- 119 《新連載》へら鮒ブログ 西田美明  
《第2回》「忘年会VS新年会」の巻
- 122 母なる湖…琵琶湖べらを釣れ! 南 元彦  
《第10回》伊吹山は雪景色♡
- 126 野田幸手園新聞
- 162 ワクワク管理釣り場情報
- 171 小売店情報
- ★へら鮒BOX
- 177 里ちゃんの新年編集長雑記
- 178 情報発信基地
- 180 土方釣具店 「壮志」展開催
- 181 ボイス
- 186 コラム「へら狂おやじと呼ばないで」白石和弘
- 187 コラム「日研だより」日研広報部長・遠藤克己
- 188 コラム「日々是、勉強!」 ホワイト
- 189 コラム「紀州“想いの竹”のものがたり」中塚伸行
- 190 プレゼント発表
- 191 広告索引
- 192 編集後記

### STAFF

- Producer  
根本百合子
- Editor in chief  
田中里史
- Editor  
大場勝良  
諸富一秋  
伊藤小百合  
伊藤洋一
- Planner  
〈オフィス・えび〉  
藤原 肇



この物語は、  
栄光、そして挫折を味わい、  
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

## 江成公隆の

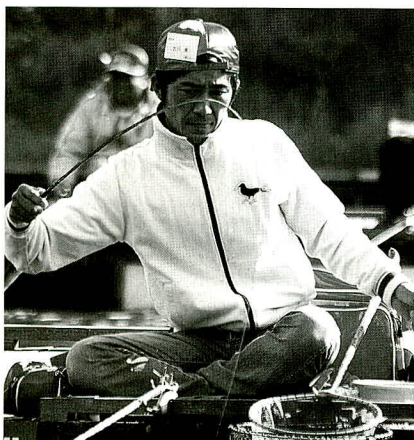
# トーナメント、 復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka  
業界初、Web運動企画！—の1は更新中— (URL) <http://hesar.yokohamatsurumi.net>

## 「一歩進んで二歩下がる!?!」

〈Vol.44〉

# 今月の表紙



2005年度G杯チャンプの古川 実氏をゲストに迎えた「トーナメント復活への道。」第44回。先月に引き続き江成は「競技会」に参戦せず、さらに今月は完全なる番外編となっていることを、まずはお許し願いたい。そして、古川氏をゲストに迎えておきながら取材場所は横根川であり、管理釣り場での氏のスーパーテクニックをお伝え出来ないことも…。がしかーし！ そちらの方は今月号の特集でバッチリ披露していただいているので、ぜひ読んでください♡ (ちなみに、タイトルは単なるシャレ…) もっとも本コーナーの愛読者ならば、今月の「脱線」は予測出来たのではないだろうか？ そう、先月号後半で江成自身が触れていたように、11/23に行われた今回の取材は本来、全くプライベートな釣行であった。しかしながら、あまりに「旬なゲスト」。里は無理を言って江成に便乗取材を依頼。12月は忙しい江成も快諾。かくして出来上がった原稿は、いわゆる「優勝インタビュー」とはまた違った、コテコテの「対談」と呼べる記事となっている。古川氏と江成との友情によってのみ成立し得た今回の対談は、他では絶対に読めないであろう大変貴重なものとなったと思う。 by 里ちん

### 勤労感謝。

江：いや〜今日は天気予報が外れてとっても寒い1日でしたが、日没寸前まで付き合ってもらってゴメンね。僕にとっては今年最後の釣りだったんで勘弁して下さい。

古川 実 (以下「古川」) …いえいえ、こちらこそ楽しかったですヨ。最高の休日でした。これで明日からまた頑張れるのもです。江：でもマイチ釣れなかったんで不完全燃焼って感じじゃない？

古：そんなことはないですよ。オデコだけは嫌だなあと思って今日を迎えたんですが、想像以上にウキは動いたんで驚きました。

江：オデコになんてならないよ〜！ よっぽどシブってない限りね。大量に放流されているわけだし。場所を外してたって、オデコにはそうそうならないんじゃないかな？

古：今年はずでに一度放流があったんですけどね？

江：日研のホームページを覗いてきたけど、11月5日に入ってたみたいだね。今日はほとんど地べら化したヤツばかりで、あんまり混じらなかつたけどね。古川君も知ってると思うけど、日研や全放協っていう団体が毎年地道な放流を続けているんだ。

古：「放流バツチ」ですね。江：そう。実はオレ、今年買い忘れてた事に気付いてさ。いつも生意気なコトばかり書いてるのに「未納」じゃバイと思ってる(笑)、こないだ慌てて買いに行ったの。新べら釣りに行くついでに、義務を果たさないうでい思いしよつたって調子が良過ぎるもんね…

でね、そういう放流事業のおかげで、管理釣り場で鍛えた人なら間違いなく釣れるくらい濃いワケよ。

古：へらは相当に濃いのは感じましたが、あの底釣りは一筋縄じゃいかないですね。あれは面白い！ でも、管理釣り場でそこそこ釣れるくらいでは、「コ」では厳しいんじゃないかと思いましたよ。江成さんの「底釣りゼミ」と北城 錦さんという名手は、横根根の存在なくしては誕生し得なかったに違いないと確信しました。宙だつてかなりキテますよ(笑)。様々な外道をかき分けつつへらを釣るためには、それなりの工夫が要りますよ。

江：ちなみに、あそこの席が当時の取材現場ね。…ゴメンゴメン！ そんなことはどうでもいいんだ。これじゃどっちが主役だか分からないよ。今日は古川君が主役なんだから。古：いえいえ、もう少し今日の釣りの話をしましょう！

江：そう？ じゃあ続き。今日学んだことは、「底釣り」で相舟しちゃうアイカン」ってこと。トントン系の古川君は竿を送るし、スラシマくりのオレは突っ張らせたいしで舟が揺れて参ったよ(笑)。なーんて冗談はさておき、いるところに入ればホントに管理釣り場並みの釣りになることだつてあるのよ。へら以外の魚なんて全く気にならないくらいにさ。今日は「型がイイ」って情報で目の前\*にとまっちゃって、結果的に二人とも20枚も釣ってないと思うんだけど、もつと浅い所に入った方が新べらで数は出たのかもしれないね。でもまあ、野釣りつばさを味わうにはちょうどいいペー\*スだったのかな、とも思うんだ。あくまでも僕的には、だけだね。

古：僕もそう感じましたよ。十分に堪能させていただきました。初めて「へら」釣りの聖地」を訪れただけでも嬉しいのに、あれだけウキが動けば言うことありませんよ。

江：そっか、初めてだったんだよね。いやいや時代ですなあ…ま、オレだつて管理釣り場っ子な世代のひとりなわけだけども(笑)。た

だ自分の場合は北斗へら鮎会に入ってたんで、横利根は必須科目だったんだよね。でも、最初は全く釣れなかったなあ。へらは明らかにいるのに。

古：江成さんでも釣れなかったんですか…じゃ、僕は合格ですね？

江：合格も合格、大合格ですよ。って、今年のG杯チャンプをオレが評価するのどうかと思うけど(笑)、実は古川君と並んで釣りをするのは初めてだったんだよね。今日一日横で見させてもらいましたけど、伊達に長くやってない(笑)。何でも飄々(ひょうた)とやってのける姿は、いわゆる最近の「浅タナセッター」達とは明らかに異なるものを感じました。

古：確かにもう長いことやってますね。青春は全てへらに捧げました(笑)。

\*今回の対談も「底釣りゼミ」の取材も、ファミレスCOOOS佐原店にて行われた。

\*中島屋より出舟。名ポイント「地蔵下」に舟付けした。



江：そうだよ。長いよね。クラブ対抗の全国決勝で一緒になったのは、もう10年前だよ。チーム「小天狗」め！オレらのチーム「ゴールデンクラブ」は最後にまくられて、お立ち台を逃したんだよね。

古：いやあ懐かしいですねえ。あの時は「へらニュース」さんによくお世話になってたんで、「小天狗」もへらニュースさんの呼び掛けです。

江：学生チャンプ連合だったよね。確かもう二人は杉山達也君と鈴木誠君だった。

古：そうですね。みんな学生で、僕は大学生で最年長でした。それにしてもあの前夜祭は鮮

明に記憶に残ってますよ。たしか江成さんはトップバッターでカラオケを歌ったんですよ。忘れもしない長瀬剛の「トンボ」！ノリノリで、もう爆笑でした(笑)。その後も大騒ぎしてましたよね。こんなに飲んで明日は大丈夫なんだろうかって、三人で心配してたんですよ。いえ、実を言うと「あのチームは明日はダメだな」って(笑)。

江：なるほど。で、「もうダメだな」っていうチームからその後でコンロと鍋を借りることになるワケだね(笑)。思い出したゾロ！洗って返さないなんて「コイツら大物だぜ！」って大笑いした記憶があるけど、果たしてその通りだったんだなあ…。

古：そんなことありましたっけ？

江：またまたトボケちゃってえ！でもね、「ヤツら新人類だ」って感心こそすれ、あの晩オレら三人誰も怒ってなかったんだよ。酔っぱらってたせいもあるかもしれないけど。ところで、今回のG杯は因縁の対決だったみたいだね。鳥居(裕輔)君と優勝争いだったんだって？「歴代学生チャンプ同士の争い」というだけじゃなくて、過去には「へら専科」での直接対決もあったように思うし、常々比較されてきた相手だよ。

古：鳥居さんは僕なんかと違ってすでに大スターでしたし、業界での実績という影響力は僕なんか足下にも及びませんよ。それでも試合後はあちらこちらで言われましたが(笑)。

江：鳥居君とはしばらく連絡とってないんだけど元気なんだね。

古：元気でしたよ。ただそういう「因縁の対決」みたいな切り取り方だけで今回の決勝戦を語られるのはあまり嬉しくないですよ。

江：と、言うと？

古：決勝戦は6名で戦うわけですよ。あそこまで進めれば、誰が優勝したっておかしくないんです。競技会である以上、必然的に順位

は付きませんが、本来相手は人ではなくて魚のほうに、鳥居さんにも僕にも、他の4名の方にもいろいろなドラマがあったはずなんです。欲しくて欲しくてたまらなかった優勝ですが、僕が優勝してよかったのかな、という気持ちもありました。

江：古川君は優しいんだな。それが今まで勝てなかった理由だったりしてね。でも鳥居君が同じ舞台にいたことは幸いしたんじゃないの？魚が相手だったのは分かるけど、多少なりとも燃えたでしょ？

古：まあ、全く燃えなかったかと言えば嘘になりますが…やっぱり魚との、いや自分との戦いってこの部分が大きかったと思います。

江：なるほどね。古川君にしてみれば「因縁の対決」は、偶然のハプニングであって、もっと別の、もっと壮大なドラマを抱えて臨んだG杯だったよってことだね？

古：壮大かどうかは分かりませんが(笑)、まあそういうことです。実は、今回のG杯は自分にとつて最後のチャンスだという認識があったんですよ。今年転職をしまして、週末をきっちり休めるのも、残業も軽めで自分の時間が作りやすいのも試用期間中だけだと思いついて。釣りに集中出来るのはこれが最後のチャンスかもしれない、と。

江：へえ、そうか。古川君ももう学生じゃないんだもんね。

古：やだなあ江成さん、僕も今年で31ですよ(笑)。



江：そうだよ。あの頃はオレも20代だったんだからな…。あれ？古川君はまだ独身だったよね？そろそろ結婚とか考えたりなんかしちゃったりしても不思議じゃない歳にな

っちゃってるワケだ。

古：まあそうですね(笑)。僕だって釣り人である前に人間ですから、いろいろあるわけですよ。釣りを飽きるほどやったらとは全く思えないですが(笑)、一区切りつけなきゃどうしようもないだろうと。そういう時期に僕も来てしまったんだな、という認識ですね。で、自分を無理矢理に納得させるには、メジャー優勝しないぞってことで(笑)。中でもやっぱりG杯ですね。これが欲しかった…。

江：95年はたしか、シモノとG杯両方予選通過したよね？でも全国大会が同じ日程で、古川君はどっちへ出るんだらうって興味津々だったんだけど、G杯を選んでた。古川君がG杯にこだわる理由ってなんだらう？

古：いや、あの年はキツかったですね。なんでメーカー間で調整してくれないんだらうって思いました。シモノも出たくて仕方がなかったんですよ。僕は決してシモノを軽く見てるわけじゃないんです(笑)。ただあの年は、G杯の方に出たい気持ちがあったんです。なぜかと言えば、G杯は10代の頃から出ていたし、全国規模の予選会場ですかねえ…まさに「全国大会」という感じがするんです。江成さんや僕は関東の人間なのであまり感じませんが、地方へ行くと、「G杯以外は認めん」という空気があるのも事実なんです。メディアでは伝えたくない空気ですけどね(笑)。

江：なるほど。古川君は今年もシモノは予選通過して、全国大会出るよね。あまり芳しくなかったみたいだね？

古：うーん、モチベーションを高め切れなかったのかも知れませんね。

江：と、いうと？

古：2005年の目標は、あくまでもG杯だったんで、予選通過は想定外だったんですよ(笑)。「じゃあなんでシモノの予選に出たんだ？」って怒られちゃいそうなので言い訳を

しておきますと、やっぱりトーナメントは嫌  
いじゃないです(笑)。目的意識のない釣行  
を極力減らすように心がけるとトーナメント  
参戦ということになるわけです。そして通過  
したからには全力で頭を狙っていったつもり  
なんですけど…。ただこれは結果論ですが、  
関西の池で行われた決勝での経験がG杯に凄  
く役立ちました。「薄さ」っていう一言に集約  
されると思うんですけどね。浮棧橋というス  
トラクチャーが「薄さ」に与える影響なんて  
のはすっごく面白かったですね。短竿ほどい  
い傾向があったり。

江：おお！ シモノは捨て石だったってこと  
ね？ これはまた問題発言ですなあ(笑)。っ  
てかコレ、上手く書かないとやべえな。責任  
重大だ。

古：そんなこと僕は言ってますよ！

江：捨て石は言い過ぎだな(笑)。でも、古川  
君のありのままを曝け出さませ〜！ スッ  
ポンポンと。

古：パンツくらいは穿かせといてやって下さ  
い(笑)。

江：了解。でもさ、実際同じ年にアレもコレ  
も獲れないよ。そういう人は過去にあんまり  
いない。複数のメジャー全国大会へ出られて  
も、優勝ってなかなかないんだよね。今年も  
見慣れない名前がダブルエントリーしてて、  
「おお！ 勢いのある新人さんかな？」なんて  
目を惹くけど、やっぱり優勝はしてなくて。

古：あー、それ天笠さんが言っていましたね。  
天笠さん、ダブルどころじゃないんです。パ  
リバス、シモノ、G杯、ダイワと、全国大会  
フルエントリーだったんですよ。そしてそれ  
が敗因のひとつだったと分析しているんです。  
僕的には、それって一つ頭獲るより凄いかも  
しれないって思うんですけどね。予選が一番  
キツイんですから…。

江：今回の勝因っていうのはどう分析してら

のかな？ G杯への思いが人一倍強かったか  
らっていうのはナシね(笑)。参加した選手み  
んなが思い込みがあるだろうし、古川君も言  
うように誰もがドラマを持ち込んで来ている  
んだから。

古：そうですね。最近、自分の中で変わった  
なと感じる部分がありまして、得意な釣りを  
強引に押し通すようなことがなくなってきた  
かなって。状況に合わせる謙虚さっていうん  
ですかね…。

江：古川君、それはね、裏を返すと謙虚じゃ  
ないんですよ。「何でも出来る」「何でも勝て  
る」っていう自信の裏返しじゃないですか？  
完全無欠のオールラウンダーへの変貌とい  
うか。

古：そうなんですようか？

江：いや、オレは古川君じゃないから分  
からないけどさ、謙虚に戦って優勝って出来な  
いと思うんだよ、やっぱり。

古川君だってG杯一本でガムシヤラに頑張  
ってきたのは事実なワケでさ。人前で控えめ  
な発言は好感持てますけど、相手を間違え  
るとイヤミかも(笑)。

古：そうですね、気を付けます(笑)。そう  
か、僕は自信が一段と付いていたんだな(笑)。

江：ですよ。得意な釣りだけを持ち込んで、  
勢いで獲れる人は獲れるんだけど、古川君は  
一度そのチャンスを逸してしまっているよ  
ね？

古：ええ。以前、G杯で準優勝した時に、オ  
ヤジに言われました。「バカだな！ お前、も  
うチャンスはないぞ！」って。

江：あのお父さん、そんなこと言う人だっ  
たの？「オヤジ、キツいぞ！」(笑)。

古：そういうえはオヤジが江成さんによろしく  
って言ってました。…でも今となってみれば  
あそこで慰められなくて良かったってことに  
なるんで、悔しいけどオヤジの勝ち(笑)。

江：いやでも実はさ、「ヤバいこと言っちゃま  
た！」ってすーっと気にしてたかもしれない  
よ。その後釣りに行けない時期が来るんだも  
んね？

古：そうですね。社会に出てからだから…22  
〜25才の頃ですね。正味3年ほどのブランク  
がありました。その頃は仕事がイッパイイッ  
パイでして、「世の中って厳しいや…」って思  
い知らされましたよ(笑)。その間はもう、  
「釣りのことは考えるのはよそう」って思っ  
てました。「行きたい行きたい」って思ってい  
ると毒なんです。で、ようやく落ち着いて、釣  
りを再開した頃は全く釣れず、もうダメだと思  
いました。そして自分でも一番驚いたのは、

「悔しい」と同時に「恥ずかしい」という気持  
ちもあつたことなんです。生意気にも僕に  
もブライドがあつたんですね(笑)。

ブライドを守って釣りに行かないのか、  
ブライドを捨ててイチからやり直すのか…。

僕は後者を選びました。競技者の前に、僕は  
純粹に魚釣りが好きな釣りキチだつてことを  
再認識したんです。でも道は厳しかったです。  
悔しさをバネにはしたものの、なかなか戻ら  
なかつた。完全にサビついちゃってたんです  
ね(笑)。いったん落ちると上がるまでが大変  
なんだなって感じました。そういう意味で、  
江成さんも勇気があると思いましたがね。

江：ありがと(笑)。再開時はなかなか思うよ  
うに釣れなかつた古川君でも、現在は完全に  
復活しているわけだよ。勘を取り戻し始め  
たきっかけみたいのは何があつたの？

古：うーん、やっぱり徐々になって感じだつた  
と思うんですけど、メンタルな部分ではちょ  
っとした事件がありました。ある日、以前の  
仲間と再会したんですけど、「久しぶり！」っ  
て声をかけたらシカトされちゃったんですよ  
(笑)。釣れないのを笑われるより悔しかった  
です。

## 完璧を目指す江成より、愛を込めて…

①まず先月号の修正から。1月号101ページ三段目真ん中よ  
りちょい前の部分。

誤：「…あっ！ 長いハリスの底釣りは、大きくズラさな  
ければ効果がないって自分で書いてあつたな…」

正：「…あっ！ 長いハリスで完全底釣りをやる場合、ズラ  
すのならば大きくズラさなければならぬ、って自分で書いて  
あつたよ…」

訂正メールを送り、了解済みの確認まで済んでいたが、訂正  
忘れてのは里ちゃんです。 ※里ちゃん註：とっくに締め切りす  
ぎてるアンタが悪い〜！

②198ページ「Deep〜」での里ちゃんのコメントについても  
の申す。「エサが軽い場合、沖打ち(振り切り)してもアン  
カー効果が弱まるため、斜めになったラインが張りにくく、  
結果、ナジミ幅が出にくく釣りがぶらぶらになってしまう」のはい  
いとして、続きのカッコ書きが問題。「(底の凸凹がトツピン  
出やすくなってしまう)」これは矛盾である。凸凹さえ拾わ  
ないはずだ。凸凹を拾う状態は、「張っている」からこそで  
ある。沖打ちのテンションもエサの比重も必要最低限確保さ  
れていることになるのだ。ではナジミ幅を一定にさせるには  
何が足りないのかと言えば、「ズラシ量」に他ならない。僕  
が選択した夏冬は、ホントのベレ底に比べれば軽いだらうが、  
小エサであっても底釣りで必要なアンカー効果を妨げるほど  
のヤブな軽さではない。全くズラしていないのであれば、軽  
い両グルテンなどでも凸凹は拾えるが、この日の僕は「めい  
っぱい(思い込み)」ズラしていたのだが、「全く」足りてい  
なかつたのだ。 ※里ちゃん註：スミマセン…(シヨンポリ)

江：いやあ、何とまあ、原動力は怨念ですか！ 怨念がバネ増強！ 全然カッコよくね〜！ でもリアルかも（笑）。それにしてもいつあバカだね。そこで挨拶返しときゃ、古川君もあと5年は眠ってたのに（笑）。

古：今では感謝しております（笑）。  
江：でもさ、そういう人多いよね。勘違いっていかさ。魚たくさん釣るのはすごいんだけど、人間として偉いのかっていうのはまた別問題なのにね。  
古：ですすよね。

江：むしろ「本当ならアナタ、頭下げなきゃいけないんじゃないの？」っていう人が、棧橋に後頭部くっついちゃうんじゃないかってくらいふんぞり返っていることも多いしさ。まあいいや。ところで、古川君は月何回くらい釣りしてるの？  
古：4回ですね。週休二日で半分釣りです。  
江：残りは？  
古：ジムに通ったり釣り以外の友人と遊びに行ったり…。

江：デートしたり？  
古：それは残念ながらないですけど…、転職して僕の24時間の大部分をとりまく環境が大きく変化していく中で、来年の自分がどうなっているのか正直分からなかったんですね。それで今年が最後だと思ってたんです。

江：正社員登用で多忙になるのは必至なんじゃない？ これ結婚なんかしたら…下手したらあつという間に月イチじゃん？  
古：だから結婚はまだしませんが（笑）。  
江：いらっしや〜い♡ でも冗談抜きで連覇どころじゃないかもしれないだね？

古：現段階ではなんとも言えないですね。三年間のシードをもらったんで、当然、全力で勝ちに行きますけど、僕としては「連覇」なんて全く意識してません。今年で燃え尽きる覚悟で臨んだ結果の優勝ですから、欲をかい

たらバチが当たりますよ。今年のG杯のあと、風邪でダウンしてしばらくダメだったんですけど、まさに出し切ったって感じでいいね。なんて言うのかな…カッコいいのは認めますけど、「連覇」に僕はあまり価値を見出してないってことを言いたいですよ。連覇を狙うのではありません、その年の「優勝」を狙う。よく言うじゃないですか、「連覇してこそホンモノ」って。冗談じゃないって思いますね（笑）。

江：危ない、オレ今言いかけたところ（笑）。オレはもちろん一回だけでも凄く思うけどね。ただ一回だけだと「今年はフロックかも」っていう見方をされかねないってことなんだろうね。岡田君みたく6回も獲っちゃったイカレホンチキのおかげで、一回じゃ誰も驚かないっていうのもあるかな。

古：勘弁して下さいよ（笑）。釣りに行く環境を作るだけでも大変なのに、連覇だなんて評価してくれない人はそれで構わないですよ。一回獲った今となっては、地区予選突破が一番キツいという思いに変わりはありませぬし、そこを何度もぐり抜け、たつた一回でも全国優勝することが出来た自分を思いっきり誉めてやりたいです（笑）。

江：連覇なんて興味ないっていうスタンスはさ、実は本当は狙っていたとしても次の一年間が凄く楽だと思っんですよ。プレッシャーが数段減ると思うわけ。オレ、自分のホームページに書いたけど、秋ちゃんが初めてジャパンカップ優勝した直後も、同じことを言ってるんだよね。しかもそれまで2着どまりだったっていうのも共通。普通の人はずこく強いで終わっちゃうと思うんですよ。そこからアタマへつなげられる人ってのはものすごく強いと思うし、1勝したらもう止まらないんじゃないかって気がするんだよね。

古：ホントですか〜？  
江：マジマジ。マジ。オレの中では優勝す

る人は「強い」っていうイメージがあって、2着の人は「ウマいんだけど強くない」っていうイメージなのよ。下手するとアタマの人より上手いぐらいなの。でも何でもソツなくまとめる器用貧乏っていうかさ。いつもそれが災いしちゃって、みたいな。そんな人が「勝ち方」を知っちゃったらもう止まらないって気がしない？

古：それが自分のことでしたら…即答は…控えますね（笑）。ありがとございます。じっくり考えてみます。

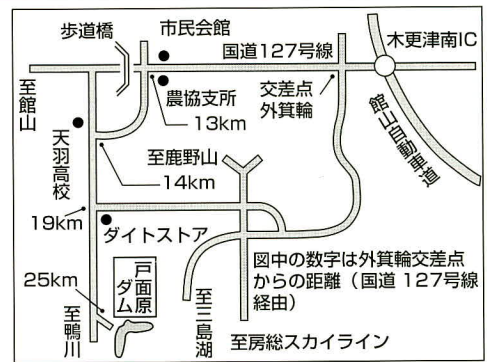


江：古川君っていうと、バックカンで釣りに来てるっていう印象が僕にはあるんだけど（笑）、ファッションとか他人の目とかがつてのはあんまり気にしない？  
古：ズバリ、「ダサイ」ってことですか（笑）？ 実は、こう見えてもメチャクチャ気にする方なんです僕（笑）。ただ、釣りは汚れますからね、バックカンなら丸洗いが効くんではない…。

江：アハハ。じゃあトーナメントでは他の人の釣りが気になっちゃうタイプなんだ？  
古：はい。かなりキョロキョロする方ですね。気にしまくり（笑）。「自分のウキだけに没頭」なんて僕には無理なんです。魚が相手だ」っていうのは、自分に言い聞かせてるだけのよう気もしますね。とにかく強固な意志で雑念を捨てなければ、と常々思っています。

江：今回のG杯決勝戦では、後半からマクって逆転したんだよね？ それってものすごくタフな心臓だと思うけどな〜？  
古：そんなことはないですよ。競技時間いっぱいの中で、どこにヤマを作るかってことだと思っんですよ。

自然美溢れるダイナミックな釣趣！  
と づ ら は ら  
**戸面原ダム**



料金	営業	5月~8月	AM5:30~PM4:30
ポート	時間	9月~10月	AM6:00~PM4:00
1日3000円		11月~2月	AM6:30~PM3:30
定休日		3月~4月	AM6:00~PM4:00
毎週木曜日			

★ **0439-68-1587** 戸面原ボートセンター 千葉県富津市豊岡2874-1

# 釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

- ・仕上がりは黒一色です
- ・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

1. ぐりへの釣会
2. ぐりへの釣会
3. ぐりへら釣会

- ・番付をインターネットで公開できます(無料)

お問い合わせご注文はお早めに!

取扱店: 柴舟 03-3613-2727

## ウキや小物の銘入れに 転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～  
2回目以降同じものをご注文の場合  
は3,500円～

- ・8書体、8色を御用意しています
- ・角印も作れます

取扱店:

- 柴舟(東京都江戸川区)  
03-3613-2727
- 佐伯釣具店(神奈川県川崎市)  
044-911-3722
- SANSUI川づり館(東京都渋谷区)  
03-3499-5025
- フィッシング中原(神奈川県川崎市)  
044-711-8266
- 鮒仙人(神奈川県川崎市)  
044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店  
または下記HPまでどうぞ

office27  
あとりえぐり

http://www.office27.com  
E-mail:info@office27.com

江: おおっ! なんかつかいいぞ!  
古: そんなんじゃないですよ。実を言うと僕はいつも出足が悪いんです。あんまり先行したことはないんで、追われるのも辛いかなとも思いますが…。僕だって理想はロケットスタートでそのままフツッチギリ独走ですよ(笑)。でも無理なんで、「相手もボケる時間帯は来るはずだ」と、考え方を変えました。要は諦めないってことだと思っただけです。「相手のボケ待ち」っていうと何だか冴えないイメージで捉えられちゃいますけど、僕はそうじゃないと思っています。今の釣りはボケ時間も釣りの内だと考えていますので、やっぱり「ヤマをどこに作るか」っていうことだと思っただけです。「冷静に冷静に」っていうのも言い聞かせているんです。必死ですよ(笑)。  
江: うーん、いい話だ。無敵のスーパースターもいいんだけど、僕はとことん人間くさい新チャンピオンは好きだな。  
古: ありがとうございます。僕は別にスターになろうと思っただけで来たわけじゃないですし、これからもマイペースで大好きなへら釣りを続けていけたらなって考えてます。遊ばんで、楽しく釣りたいですね。  
江: だね。…ただし、古川君が望むまじい

は別として、自分がすでにスターになってしまっていることは自覚した方がいいと思うな。そしてそれはG杯を獲得前からそうだったと思うよ。学生チャンプで彗星のように現れて以来、メディアでの露出度は高かったし、一般の釣り人とは明らかに別世界に古川君はいたわけですよ。宿命っていうの? 今後はより一層まわりは特別扱いしてくるんじゃない?  
古: そうですか?  
江: 多分ね。嫌?  
古: 正直に言えば、10代の頃は有名になりたかったという気持ちはありました。誰もが通る道だと思っただけで…ただ、そういう気持ちは現在キツパリと「ない」んです。こんな僕に出来ることなんかあるんでしょうか。  
江: 本当は古川君ぐらいの実績であれば、次世代のリーダーとして頑張らなくちゃいけないだろうと僕は思っただけ…。  
古: うーん…他人のことはどうでもいいとは思ってはいませんが(笑)。純粋に楽しみたいと思っただけですが、恩返しみたいな気持ちはあります。ただガツガツとやっつけていける自信はないですね。時間的にも、です。  
江: 色気がないんだったら好都合な面はある

と思うよ。これから色々なオファーが来ると思うんだけど、安売りはしないで欲しいの。それだけでも古川君の後に続く人達へのプレゼントには十分なと思うんだよね。モノもらうだけで喜んでたら、メーカーの思っつぽ。縛りが増えるばっかりだよ。デメリットもちゃんと考えないとね。きちんと考えて選択して欲しいと思っただけですよ。  
古: 「もらいえ食」になるってことですよ(笑)。今後は簡単に取っ込まれないように気を付けます。幸い当面の間は、釣りにかかるお金は自分の働いたお金だけでも賄えると思っただけです。  
江: いいね! 古川君は釣りでメシを食ってわけじゃないし、失うものは何もないじゃない。古川君が悪役を引き受けることで、健全な業界発展につながるかもしれないですよ。  
古: 僕達よりずっと若い世代の人達が、「釣りでメシを食う」という夢を見られるように、環境を整備しておけってことですよ。  
江: そうそう! 「チリも積もれば」で何とか食える世界なんだろうから、「とにかく何でもお金をいだけ」のが当たり前にならなきゃマズいわけだね。そして「支払う」のも当たり前にならなきゃマズいわけだよ。シス



日没間近、写真が1枚もないことに気付いた江成が、慌てて撮ったであろう1枚。いつもながら写真点数少な過ぎ! そして露光不足! 「フラッシュくらい焚け〜!!」。送られてきたのは、この1枚と、ファミレスで撮ったであろう1枚の、たった2枚のみ。しかもファミレスの方は古川君の笑顔の写真なのだが、見事なピンボケでボツ! どうせ釣りとお話に夢中で写真なんて忘れてたんでしょ…。ああ、その光景が目に残ります(涙) by里ちゃん

テムを変えないと。  
古: 了解しました(笑)。ところで、江成さん、年明けもまた釣りに行きましょー!  
江: 喜んで!  
…というわけで、古川君の人間性が垣間見られる、なかなか人間くさい対談となったわけでありませう。横根川に行っちゃうところがいかにもアニキらしいですが…。今月号の特集、そして、「新米編集長雑記」もチェックしてみてください!  
by里ちゃん

へら鮎釣りの楽しさを追究し続ける...



Monthly fishing magazine herabuna

# 新

# 2

2005G杯覇者・古川 実が魅せる、冬をブチ抜くストロングスタイル!

特集

# スト

# ウト

# セット

# ング

## 新連載

## タメ押し!

小池忠教 棚網 久青川ひとみ

## 超豪華!

「こだわりの店・黒へ糸」提供

## 新春お年玉プレゼント

永久保存版!  
関べら最強コンビ・森崎政典&戸張 誠が  
鮎釣り例会必勝エッセンス!!

## 特集II 最強・例会必勝論



# 厳寒を制する、2つの理想型。



軽く、軟らかく、吸い込みやすい。  
理想的な仕上がりを追求できる、  
わらびウドン。

自分でわらびウドンを炊く、本格派のへら師  
におすすめ。「特選わらび彩」は、現在の  
釣り池の傾向を考慮し、素材にこだわって  
開発した、わらびウドン。軽く、エサ持ちがよく、  
吸い込みが抜群。しかも、つくり方次第  
で、ネバリとコシの微調整が可能。だから、  
理想的な仕上がりを追求できます。

●特選わらび彩 分包3袋 28g×3



使いたいとき、すぐに使える。  
理想的な便利さを備えた、  
粒状くわせエサ。

手軽に楽しみたいへら師におすすめの、わら  
びウドンタイプの粒状くわせエサ「カ玉」。  
使いたいとき、サッと取り出し、ハリに付ける  
だけ。ベトつかず、ハリ付けが簡単。だから、  
素早い手返しが可能。浅ダナからチョーチン、  
段差の底釣りやセット釣りのくわせエサ  
など、オールラウンドに活躍します。

●カ玉 (ちからだま) 40g 冬期限定品

定価 1000円

本体九五二円

**丸マルキュー株式会社**  
〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4

お問い合わせ 本社・桶川工場:048-728-0909 大阪支店:072-824-0909  
四国営業所:0877-44-0909 九州営業所:0942-82-0909  
ホームページアドレス <http://www.marukyu.com/>

釣り場でエサに困ったら  
iモード・ホームページ  
<http://www.marukyu.com/i>

**2006 横浜 開催**  
2/10(木) 11:00-12:00 at パシフィコ横浜  
国際釣りコンプレックス2006

